

実証目的

神戸市・ミツフジ共創によるデジタルワーケーションの社会実装検証と
取得したバイタルデータの医療レベルでの利活用検証

事業概要

観光資源と医療先端都市の強みを活かした地域活性化推進 ～ワーケーションを通じた生体データ収集から医療用途への活用検証～
・ウェアラブルIoTソリューションを活用したワーケーションプログラム参加者のアナログ及びデジタルデータ(バイタルデータ・気候等)の収集
・上記データ取得後の医療機関によるデータ監修及びワーケーションパッケージの組成検討と遠隔医療サービス事業化に向けたデータ評価と課題抽出

解決する課題

- [1]afterコロナに対応する地域・産業活性化
コロナ禍を契機とした新たなワークスタイルへの変化に対応するため、ワーケーションをテーマに六甲山・神戸港を始めとする環境資源を活用し、新たな雇用機会を創出。
- [2]人口減少・高齢化対策
観光資源や日常・継続的に取得可能なバイタルデータを活用し、安心・安全で快適な社会生活が提供できる医療先端都市として、移住や企業誘致等による人口流入の活性化。
- [3]安全・安心なまちづくりへの拡張・発展
高齢者や住民の健康・地域見守りサービスへ拡張できるシステム・サービス開発による新規事業開発と住民サービスの充実化。

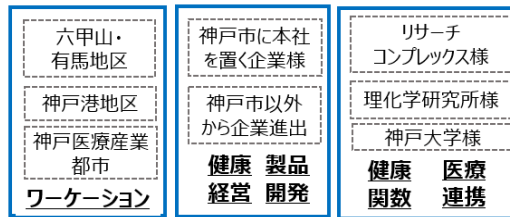
先駆性・独自性

- [1]神戸市の強みと弊社ノウハウを活用し、政令指定都市初のワーケーション事業「神戸モデル」の立ち上げ、神戸発のIoT活用によるデジタルワーケーションを具体化し、その効果を訴求することで、自治体としてのブランディング力向上とあわせて移住・企業誘致による人口流入機会を創出。
- [2]ワーケーション参加者のデータ分析を元に、医療機関・学術機関によるデータ監修・分析を踏まえ、ワーケーション以外に地域の高齢者等への健康見守りサービス、医療機関や介護施設等と連携した遠隔医療サービスの事業化や創薬・医療承認に向けた治験フィールドを提供。安心・安全な街づくりへの基盤形成に貢献。
- [3]ワーケーション参加者のバイタルデータ・健康・ストレスデータを収集・分析することで、安全を確保した上での観光振興と、従業員の生産性向上等を実現するロケーションとして企業誘致を促進するパッケージを組成。また、ワーケーションの経験を通じて、神戸市における新たな社会生活の場を想起する動機を誘引。

実証内容



ー神戸市と実施したいことー



効果検証
エビデンス

マーケティング

データ
可視化

データ
監修



＜ワーケーション取組実績を応用展開＞

- ①ピーチアビエーション株式会社との取り組み
・2020年9月25日、ピーチアビエーション株式会社よりワーケーションの取り組みをプレスリリース。自社のテレワーク制度としてプログラム化、バイタルデータの利活用を訴求。2019年、CAIによる、hamonを利用してストレスレベルを可視化し、潜在的なメンタルヘルス状態の客観情報を把握検証。
- ②ミツフジ自社従業員による取り組み
・2020年7月、8名により7日間のワーケーショントライアル実施。実施レポートあり。ワーケーションを企業が導入する際の課題抽出、バイタルデータと行動ログ等の比較により、従業員の生産性向上に対する取り組みを効果検証。実施前、実施中、実施後の継続的なデータ取得により、ストレスレベル等の健康状態を可視化。